

氏名	日 野 博 夫
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 4 2 5 号
学位授与の日付	昭和45年 6 月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)
学位論文題目	末梢神経および骨格筋に外科的侵襲を加えた際における 骨格筋の変化に関する細胞学的研究
論文審査委員	教授 砂田輝武 教授 児玉俊夫 教授 新見嘉兵衛

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

第1編 ラットを用い坐骨神経切断後、再縫合すれば、下肢の範線維は一時、脱神経萎縮に落ちいるが、次第にその微細構造の回復を来すこと、および赤、白、中間型の3種の筋線維が均等なモザイク様分布を示さず単一筋線維の集合する像が観察され、これをsingle fiber grouping 現象と名付けた。

またラットのM. extensor digitorum longus (いわゆる白筋)の神経をM. soleus (いわゆる赤筋)に交叉縫合すると赤筋の白筋化現象が認められ、これを電子顕微鏡的に証明した。

第2編 ラットの坐骨神経を挫滅し、そのM. extensor digitorum longus を観察したところ、一時は神経萎縮をおこした。筋線維が正常化してくるのに平行して機能的な回復が認められた。

第3編 ラットの下肢をギブス固定、臍切断により廃用せしめ骨格筋を組織化学的に検索したところ、主として赤筋線維および中間型筋線維の萎縮が甚しく、ギブス固定において特にその傾向が強く、臍切断においては白筋線維は、ほとんど正常の構造を保っていることが観察された。

## 論文審査の結果の要旨

本研究は、末梢神経および骨格筋に外科的侵襲を加えた際における骨格筋の変化を細胞学的に研究したものであるが、従来ほとんど知られていなかった外科的侵襲時における骨格筋の変化について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。